

鎌倉幕府初代将軍の源頼朝から伊達郡(福島県北部)をもらい、伊達氏をはじめて名乗ったとされるのが朝宗です。八代宗遠は現在の山形南部や宮城県南部へと勢力を拡大、九代政宗は室町幕府将軍との結びつきを強め、対立する鎌倉公方軍を赤館(桑折西山城)で迎え撃ちました。その後も、将軍から諱をもらい、幕府と密接な関係を築き、十四代宗宗が陸奥国守護に任じられ、名実ともに、東北地方最大の大名へと成長しました。



東北地方最大の戦国大名 十四代 伊達植宗

〔だて たねむね〕

一四八八年生まれ。一五四年家督相続、一五七年左京大夫に任じられ、将軍足利義植から二字を賜り、植宗と名乗る。
一五三二年陸奥国守護に任じられた。
一五三三年頃、伊達氏の本拠地を梁川城から桑折西山城に移し、一五三六年に分国法「麁芥集」を制定した。一五四二年より嫡男晴宗と対立し、父子が争う「天文の乱」となり、一五四八年和睦を結び、晴宗に家督を譲り丸森に隠居した。
一五六五年 七十八歳で没。

伊達氏系図

- ①朝宗―②宗村(為重)―③義広
- ④政依―⑤宗綱―⑥基宗
- ⑦行宗(行朝)―⑧宗遠―⑨政宗(大膳大夫)
- ⑩氏宗―⑪持宗―⑫成宗
- ⑬尚宗―⑭植宗―⑮晴宗
- ⑯輝宗―⑰政宗(仙台藩祖)

桑折西山城を守る会

戦国大名伊達氏の居城「史跡桑折西山城跡」の保存と活用を行い、町の宝を次世代に継承していくことを目的に、令和4年に発足しました。

桑折町では、令和3年に「第28回全国山城サミット桑折大会」を開催し、その実行委員会を母体に、町民が主体となって活動しています。

桑折西山城跡を中心に、環境整備活動や、町と協力し、桑折西山城活用事業を行っています。

活動に関心、興味がある方は、ぜひ事務局までお問い合わせください。

桑折町観光情報

桑折町は、福島県北部に位置し、福島市や宮城県とも接する町です。仙台市からは電車で約1時間、東京からは電車・新幹線で約1時間40分と交通のアクセスにも優れています。また、伊達氏発祥の地の史跡や交通の要衝・桑折宿など歴史を感じる町並みも魅力の一つです。

その他、飲食店や観光の詳しい情報は下記QRコードからホームページをご覧ください。



桑折西山城を守る会事務局

桑折町教育委員会教育文化課

〒969-1692 福島県伊達郡桑折町大字谷地字道下 22-7

TEL : 024-582-2403

東北 復興道路 ～道・絆プロジェクト～

伊達の軌跡

桑折西山城を舞台にした



伊達氏ルーツ
居城マップ

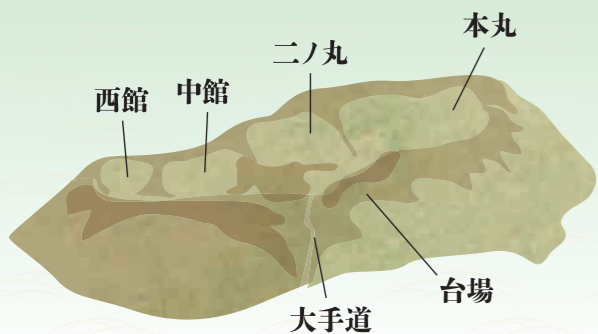
伊達政宗公の祖先と
ゆかりの史跡巡り
伊達氏の歴史が
ここからはじまる。

戦国時代の遺構が残る山城 桑折西山城

天文元年(一五三二年)頃に陸奥国守護に任じられていた伊達植宗は当時、梁川城を居城としていましたが、政治を司るところとして、交通の要衝の桑折西山城を築きました。天文十七年(一五四八)に嫡男の伊達晴宗が米沢に移るまで、戦国大名伊達氏の本拠であった山城です。
城は大きく本丸・二ノ丸を中心とした部分と、中館・西館を中心とする部分に分けられ、発掘調査の結果、本丸の中心部

国指定史跡

には、何度も建て替えられた大きな建物があり、伊達氏が政治や儀式、接待を行った建物であったと見られています。西館・中館は桑折西山城が廃城になった後に作り直され、他にも土塁や空堀、枡形など、跡が残されています。



① 伊達氏本城桑折西山城

天文元年(1532)頃、14代の穂宗が築いた戦国時代の山城。室町幕府から陸奥国守護に任じられていた穂宗は、梁川城から交通の要衝の桑折西山城に本城を移し、分国法「塵芥集」を編纂するなど、東北地方最大の戦国大名となりました。天文11年(1542)頃、嫡男の晴宗と対立し「天文の乱」が勃発。7年にわたって西山城の争奪戦を繰り広げました。



住所:桑折町大字万正寺字本丸 地内
※駐車場は、観音寺駐車場または、うぶかの郷をご利用ください。

⑤ 桑折氏菩提寺・桑折寺と西山城から移築した山門



3代義広の庶長子である親長を祖とする桑折氏の菩提寺。天文17年(1548)に桑折西山城が破却されて伊達氏が米沢に移る際、城内にあった門を拝領して移築したと伝えられています。切妻の唐破風を前後に見せた向唐門。県指定重要文化財。

住所:桑折町字新町32 電話:024-582-2690

⑥ 伊達氏初代朝宗墓所 伊達五山・満勝寺跡

初代朝宗の墓所周辺は、朝宗の菩提寺として4代政依が建立した満勝寺の跡ですが、源頼朝が建立した寺と同じ型で造られた瓦が出土しているため、奥州藤原氏との合戦の功で入部した朝宗が、直後に寺を建立していたとみられます。寺は江戸時代の初期までに仙台に移されたが墓所は残されました。仙台藩では参勤交代の際に墓参しており、文政4年(1821)藩主によって五輪塔が建てられました。



住所:桑折町大字万正寺字下万正寺
※駐車場は、つつじヶ岡史跡公園をご利用ください。

⑦ 初代朝宗勧請 西山城守護神「諏訪神社」

文治5年(1189)初代朝宗が西山城(高館)を築いたとき、信州の諏訪の神を勧請し城地守護神として祀ったと伝えられています。慶長3年(1598)に現在地に移され、江戸時代には、仙台藩主への謁見を許されました。社殿は火災で焼失し、大正13年(1924)に再建されました。平成4年(1992)から遷宮800年祭を機として御柱祭を7年に1度(6年毎)行っています。

住所:桑折町字諏訪8

⑧ 伊達五山東昌寺梵鐘・傳來寺

浄土真宗大谷派の寺院。梵鐘は、文正元年(1466)11代持宗が、伊達五山のひとつ東昌寺に政依菩提のために铸造したものを、後に片倉家・白石城の時の鐘として使い、明治維新のときに傳來寺が譲り受けたもの。2度鑄直されていますが、銘文には奥州伊達郡無為山東昌禅寺鐘と刻されています。

住所:桑折町字道場前6

② 伊達五山・観音寺

宝治元年(1247)、4代政依が亡父3代義広菩提のために建立された観音寺。政依は、京都五山や鎌倉五山に倣って5つの寺を創立し、鎌倉仏教文化をこの地に残したといわれています。これらは伊達五山と総称され、後には仙台の地に移され、北山五山となりました。多くの県、町指定文化財が所蔵されています。



住所:桑折町大字万正寺字坂町20
電話:024-582-3072

③ 奥州街道・羽州街道分岐「追分」

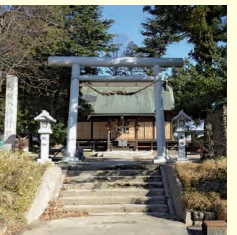
江戸時代の東北の二大街道の分岐点。奥州街道は江戸から白河を経て、桑折、仙台、盛岡、青森、油川を経由し、渡海口の三厩まで。羽州街道は、桑折から七ヶ宿、山形、久保田(秋田)、弘前を経由して油川で奥州街道と合流しています。羽州街道の原点は、伊達氏領の伊達郡と長井荘(山形県置賜地方)を結ぶ街道で、更に京都を目指す街道でもありました。平成18年(2006)に地元の有志が中心となり、江戸時代の「商家高名鑑」に記載されていた当時の様子を再現しました。



住所:桑折町字追分1

④ 南半田八幡神社

14代穂宗は桑折西山城に本拠を移した時、氏神亀岡八幡宮も移しています。南半田の八幡神社周辺がその跡です。神社は、もと、現境内北の八幡阿部館にありましたが、明治になって神主神尾屋敷跡に遷座されました。4月に行われる例大祭では、当地方の伝統芸能である京都祇園囃子が演奏されます。



住所:桑折町大字南半田字八幡

桑折町の伊達氏史跡探訪



⑩ 伊達崎城跡

阿武隈川の氾濫原を見下ろす河岸段丘の上にある伊達崎城は、初代朝宗の六男実綱が伊達崎郷を分けられ、伊達崎氏を称して築いたといわれています。

住所:桑折町大字伊達崎字西館

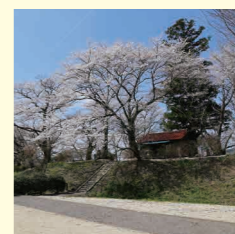
⑪ 明治時代の擬洋風建築・旧伊達郡役所

明治16年(1883)桑折村の誘致で保原から移され、新庁舎が建設されました。大正15年(1926)に郡役所が廃止されるまでの43年間、伊達郡行政の役割を果たしました。擬洋風建築として優れた建物で、国の重要文化財に指定されています。郡役所前の「本町」は、発掘調査で戦国時代の町家が発見され、14代穂宗が西山城を築いた際、成田元宿(現桑折工業団地付近)から町場を移し、これが後の桑折宿となったと考えられています。



住所:桑折町字陣屋12

⑫ つつじヶ岡遺跡・大五輪遺跡



産ヶ沢川の上流にある沼田菅原神社の旧境内で、地元の伝承では、仙台の榴ヶ岡にある天神社がここから遷座されたといわれています。しかし、仙台の天神社は相馬市に創建され、柴田郡などを経て現在地に移されています。朝宗の墓所周辺から仙台に移された満勝寺の鎮守社として信仰され、伊達氏との強い繋がりに由来した伝説と思われる。大五輪遺跡は満勝寺の開山和尚の墓といわれ、五輪塔は無くなくなっていますが、石積基壇の上に椿が生えています。

住所:桑折町大字万正寺字天神森

⑬ 桑折氏播磨館跡



桑折氏は、伊達氏3代義広の庶長子親長を祖とし、阿武隈川氾濫原を望む位置に居館を営みました。「播磨館」とは、戦国時代の当主桑折播磨守景長に因んでいます。館跡からは、南北朝～戦国時代のかわけや中国産陶磁器など、伊達氏の居城とも勝るとも劣らない内容の遺物が出土しています。桑折氏が去った後、年貢米を保管し、桑折河岸から江戸へ積み出すための蔵場として使われました。

住所:桑折町字庫場

⑨ 万正寺の大カヤ



カヤの巨木としては、国内随一の大きさがあり、初代朝宗や、4代政依の伝説が残る万正寺の大カヤ。大カヤの根元からは、古瀬戸の瓶子や八郎窯で生産されたと思われる甕と鉢が発掘されました。これらの陶器は、「大樞遺跡出土品」として、福島県の重要文化財に指定されています。樹齢は、約700年と推定され、周辺が伊達氏一族の墓所であったと考えられています。県指定天然記念物。

住所:桑折町大字万正寺字大樞

歴史の小径

仙台藩祖の政宗は、朝宗から数え17代目にあたります。このようなことから、桑折町にはかつて伊達氏が居城した桑折西山城(国史跡)をはじめ、関連する寺社や史跡が数多く残されています。また、日本有数の温泉場である「飯坂温泉」に通じる街道の往来もあり、かつて「奥の細道」で松尾芭蕉もこの地を通りました。

■散策行程(4.0キロメートル:75分)「うぶかの郷」までのルートの場合
(1)旧伊達郡役所 → (2)諏訪神社 → (3)伊達朝宗の墓所 → (4)つつじヶ岡史跡公園 → (5)観音寺 → (6)西山城跡 → (7)美肌の湯「うぶかの郷」

他にも楽しめる散策ルート

- 語らいの小径(桑折宿のなごりを感じる、中心市街地のルート)
- 果物の小径(桃源郷の景観を楽しむルート)
- 羽州街道、古(いにしえ)の小径(羽州街道を体験するルート)
- 自然の小径(うぶかの郷から半田山自然公園までのルート)



伊達氏ルーツ 居城鳥瞰図

～伊達氏ゆかりの地巡り～

米沢城跡・館山城跡

天文の乱で勝利し、15代を襲名した晴宗は、室町幕府の命により、桑折西山城を廃し、合戦中に拠点としていた米沢に本拠を移しました。米沢には、平城の米沢城、山城の館山城の2つの大きな城があり、晴宗・輝宗・政宗と3代にわたり本拠の地となりました。
住所：米沢市丸の内1丁目(米沢城)
米沢市館山(館山城)



白石城跡

17代政宗の重臣片倉小十郎景綱の居城として知られます。城の時の鐘は、片倉氏が政宗から賜った伊達五山東昌寺の梵鐘で、明治維新の際、桑折の傳來寺に買い取られ、里帰りを果たしました。また、天文の乱で晴宗は桑折西山城からこの城に退却しています。
住所：宮城県白石市益岡町



奥州合戦・阿津賀志防壁

平安時代末期から鎌倉時代の初期にかけて奥州藤原泰衡と源頼朝が戦った奥州合戦最大の激戦地が国見町です。泰衡軍が頼朝軍を迎撃するために築いた3.2kmにも及ぶ堀と土塁からなる「阿津賀志山防壁」は、三大防壁の一つです。
住所：国見町大字大木戸地内



丸森(丸山)城跡

天文17年(1548)14代種宗が、息子の晴宗との7年間にわたる合戦に敗れ、桑折西山城より隠居した城。永禄8年(1565)種宗没後、遺言により隠居料を譲られたと主張する相馬氏によって占拠され、以後、16代輝宗が奪還するまで、付近は戦場となりました。城の西館に種宗の墓所があります。
住所：宮城県伊具郡丸森町字洲ノ上



大條(大枝)城跡

8代宗遠の二男宗行は伊達郡東大枝の地に分家し、大條氏を称しました。大條氏は、阿武隈川を望む袖ヶ崎に城を築きました。梁川城を前方に見ることができる場所に位置し、関ヶ原合戦時には、17代政宗が梁川城攻めの陣城としています。
住所：伊達市梁川町大字東大枝字宮



梁川城と政宗初陣祈願 梁川八幡神社～愛姫引き渡し場

梁川城は、11代持宗から14代種宗まで伊達氏の本拠として使用されました。梁川八幡神社は、もとは伊達氏の氏神亀岡八幡宮で、17代政宗が、天正10年(1582)初陣の際に戦勝祈願を行いました。また、その正妻の愛姫が奥入れの際、この地で実家の田村家から伊達家への引き渡しが行われました。
住所：伊達市梁川町字鶴ヶ岡(梁川城跡)
伊達市梁川町八幡字堂庭(梁川八幡神社)



高子岡館跡

奥州藤原氏との合戦で功を挙げた初代朝宗が、最初に居館を置いたところと伝えられています。奥州藤原氏配下で最大の勢力を持ち、朝宗父子が破った佐藤庄司基治一族の本拠飯坂大鳥城や、朝宗が満を持して入部し寺院を建立した桑折地域を一望にすることができます。
住所：伊達市保原町上保原字丹露盛



陽林寺

14代種宗が、禅僧・盛南禅師(せいなんぜんじ)を信仰し、永正10年(1513)に禅師の庵をもとに開いた曹洞宗の寺院。種宗は、禅師を桑折西山城に招き、半田に住まわせています。種宗が隠居後は、その三男で大森城主となった実元が保護し、種宗没後、墓所を営みました。福島市指定史跡及び名勝。
住所：福島市小田字位作山

